

2023 年度:こども園自己評価の報告書 旭丘こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・ 昨年に引き続き、園内研究のテーマ「心も体もしなやかに、仲間の中でいきいきと育ち合うための物的、人的環境を考える」とし、外部講師を招いて配慮の必要な子ども達の援助や、子ども達が楽しんで遊ぶ中で培われる身体の育ちを学んだ。 ・ また計画的に、全クラス順番に公開保育を行い、参加した職員の意見を交えながら保育の振り返りを行うことで、クラス担任の子どもを見る視点が定まり、保育に活かすことができた。
健康支援	・ 毎月の保健だよりで、季節ごとの健康に関するワンポイントや、保健指導の時の子ども達の様子を掲載した。 ・ 発信したい情報は玄関の「保健コーナー」を活用し、保健に関する絵本を紹介したり、タイムリーな保健に関する記事を掲示したりして情報発信を行った。
安全指導・危機管理	・ 避難訓練を毎月継続して実施することで、子ども達に「お（おさない）、は（はしらない）、し（しゃべらない）、も（もどらない）」の意識が浸透し、保育教諭の指示や避難誘導の放送も良く聞いている。 ・ 日時を知らせずに実施した避難訓練の時も速やかに避難が完了し、日頃の訓練の成果を感じた。
食育の推進	・ 季節ごとに野菜を植え、収穫するまでの過程を日々観察することで、野菜の成長や本来の形を知る機会となった。 ・ 季節ごとにクラスで野菜を育て、収穫後に友達とクッキングして食べることで、普段は苦手な食べられない野菜を「おいしい」と言っておかわりしながら食べる姿があり、菜園活動が「食」への興味関心につながっていると実感した。
子育て支援（在園児および地域）	・ 新型コロナウイルスの5類への移行後、保護者同士がお互いに顔を合わせて楽しめる行事や、それぞれの子育てをクラス懇談で語りあう機会をもつことで、保護者同士や職員とのつながりが深まり、保護者アンケートの「相談できる環境に努めている」項目のポイントアップにつながった。 ・ 地域支援事業の利用者が昨年より増えている。クラスとの交流を再開し、園児の様子を近くで見ることが地域の親子にとって良い刺激になり、交流は毎回好評を得ている
インクルーシブ教育保育	・ 配慮を必要とする園児に関わる保育教諭が定期的に集まってミーティングを行い、関わり方や見守り方、友達との関係づくり等、それぞれが抱える悩みについて意見交換を行い、様々な手法を学ぶ機会となった。 ・ アドバイザー研修で外部講師を招き、関わりが困難な子どもに対して、具体的な関わり方を学び、一定期間実践した後に講師と共に実践の振り返りを行うことで、より学びが深まった。
職員の資質の向上	・ 昨年の保護者アンケート結果から、園が保護者にとって気軽に子育て

	の悩みが相談できる「安心な居場所」になれるよう担任を中心に意識して取り組んできたことで、「困った事や気になる事があった時に相談できる環境づくりに努めている」のポイントが上がった。 ・今年度も人権研修を3回行い、事例を読んだ後にそれぞれが感じた事をグループ内で意見交換することで、価値観の違いを知り、自身の価値観を振り返る機会となった。 ・環境ガイドラインの活用が不十分であったので、次年度は公開保育の時や日々の保育の振り返りに活用していきたい。
幼保こ小中の連携・接続	・昨年度5歳児を担当していた職員が小学校の運動会を見学し、子ども達がどのように期待感を持ったり楽しんだりしているかを見る機会となり、遊びを一緒にする大人が思い切り楽しそうにする事で子どもたちも構えず楽しめると学んだ。 ・今年度も近隣園と小学校の校庭で5歳児交流を行い、入学前から一緒に入学する友達を知り、学校生活に期待感を持つ機会とした。
評議員会	・昨年度までと違い、子ども達と近い所で各クラスの保育の様子を見ていただき、その中で“知らない大人に「できない」と助けを求められる力が育っている。”“小さいクラスの子ども達が不安で泣かないのは担任との愛着関係が育っているからですね”という評価を得た。
その他	・年度の途中から、保育システムアプリの機能を活用して、園だよりやクラスだより等の配信を行っている。登録されている保護者の方にはタイムリーに情報を届けられるようになった。今後も他園の活用方法を参考に、保護者の方にとってより便利な園情報の発信に取り組んでいきたい。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
職員の資質向上	・子どもに対して自分では丁寧に寄り添いながら関わっているつもりでも、声のトーンや仕草によっては子どもや保護者の方達に違う印象を与えたり、誤解されたりする事もあるので、「相手がどう感じるのか」にポイントを当てて自身を振り返る機会をつくっていく。
学びの共有 研修に参加して得た気づきや学びを 他の職員と共有する	・職員会議の時間内で研修報告の時間を確保できないことがあり、研修に参加した職員以外に学びを広めることが難しい現状がある。研修報告を工夫して、一人の学びが全体の学びにつながるよう工夫していく。

令和6年（2024年）3月31日

豊中市立 旭丘こども園

園長 林 正 子